

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	教師の授業力向上を推進し、学力の向上を図る。
目標（評価規準）		○教師自身が、自らの授業力向上を実感する。 ○児童が、学力の向上を実感する。
重点に係る現状 設定理由		○子どもの学力向上を図るため、授業力を向上させる必要がある。 ○授業力向上にむけての意欲は十分にもっているため、校内研究を中心に、授業力向上を目指す。 ○子どもは、概ね授業に前向きに取り組んでいるが、学力の保証が十分にされているとは言い難い面もある。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○概ねすべての教員が、自らの実践を振り返り「授業力が向上した」ことを実感している。多くの教員が個に応じた学習指導や授業展開を心がけていると回答している。また、個々の教員が、校内研修の実践や児童の特性を踏まえた指導の工夫・改善を行っている。
各アンケート等の結果	○児童向けアンケート項目「わたしは、勉強がわかるようがんばっています」において、肯定的回答が88%であった。児童の意欲を喚起する点として十分に評価できる。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、勉強していることがよくわかります」において、肯定的回答が80%と概ね良好な評価であった。一方、残りの20%の回答について、さらにわかる授業をめざして今後の改善方策に生かしたい。 ○保護者向けアンケート項目「学校は、子どもたちが意欲的に学習し、基本的な学力が身につくように努力している」において、肯定的回答が90%であった。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○授業力向上のため学校全体で取り組んでいる「校内研究」について「研究テーマ」に沿った授業研究を行い、個々の教員が自身の授業力を見つめ直し、技術を向上させる機会として有効に働いた。またタブレット端末導入により、タブレット端末を活用した授業を実践し、授業力向上につなげた。 ○児童の学習面の実態については、概ね良好な評価ととらえる。しかし、学力が定着しない児童や理解が不十分な児童がいるのも事実であり、それを真摯に受け止め、指導の基本的方針でもある「しっかり認め、しっかり教える」「子どもの可能性を大切にす」指導を引き続き充実させたい。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、宿題以外にも家庭学習をしています」において、肯定的な回答は52%であった。日常の中で学習習慣を定着させるため、「自学」の取り組みを継続、充実させて、自主的に学習する態度を育てたい。
学校関係者評価結果	○教師はよく教材研究をしてわかりやすい授業を行っている。 ○子どもたちは落ち着いた雰囲気ですべて学習している。 ○学力の向上に引き続き努めてほしい。
最終改善方策	○今後も授業研究を軸とした校内研究の充実に努める。 ○家庭学習の充実や自主的に学習する態度を育てるため、自学の取り組みを継続する。

本年度の重点	2	温もりある雰囲気づくりに努める。
目標（評価規準）		○子どもが、「自分の学級は温もりがある」と実感する。 ○教師が、「自分の学級は温もりがある」と実感する。
重点に係る現状 設定理由		○友達関係の大きなトラブルもなく、現状では温もりある雰囲気づくりができつつある。 ○一人ひとりに寄り添いながら、子どもとの「縦の関係」、子どもとの「横の関係」、子ども同士の「横の関係」を適切に築くことで、「温もりある雰囲気」をつくっていききたい。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○全職員が「子どもたちは温もりがある」と肯定的に回答している。 学校全体で、一人ひとりの児童に寄り添い、子どものよさを伸ばし、いきいきとした楽しい学校生活が送れるよう指導していることがうかがえる。
各アンケート等の結果	○児童向けアンケート項目「わたしは、学校へ行くのが楽しいです」において、肯定的回答が76%であり、概ね充実した学校生活を送っている様子がうかがえる。一方で、否定的回答の24%に目を向け、さらに一人ひとりを大切にしたい指導を心がけたい。 ○児童向けアンケート項目「わたしは、友達となかよくしています」において、肯定的回答が89%であった。 ○保護者向けアンケート項目「子どもたちは、自分らしくいきいきと学校生活を送っている」において、肯定的回答が98%であった。 ○保護者向けアンケート項目「子どもたちは、集団行動の中で助け合いやおもいやりの姿勢が育っている」において、肯定的回答が97%であった。良好な評価ととらえる。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○学年や学級の分け隔てなく、各教員が日常的な指導を積み重ねていく中で、児童一人ひとりとの良好な関係を築くことにつながったと考えている。 ○学校スローガン「自分らしく いきいきと」のもと、児童の自己肯定感を高めることを常に意識して指導していることにより、子どもたちに「助け合いや思いやりの姿勢」が育ってきていると実感している。 ○学校へ行くのが楽しくないと感じている児童7%にも目を向け、これまで以上に一人ひとりに寄り添い、きめ細かな指導をしていきたい。 ○児童支援において、情報共有・連携指導を大切にして、学級担任が一人で課題を抱えこまないよう注意し、チーム力でより良い支援に努めることができた。
学校関係者評価結果	○子どもたちと一緒に遊ぶ教員がいることは、とても価値のあることである。 ○子どもが、学校へ行くのが楽しいと感じていることは評価できる。 ○学年や学級間の障壁が少なく、教職員が分け隔てなく見守る雰囲気がある。 ○よい雰囲気を維持できるように指導の充実を期待する。
最終改善方策	○子どもたちが「自分らしく いきいきと」生活できるように、学級経営を基盤とした指導の充実に努める。 ○子どもの自己肯定感を高めることを意識し、子どもに寄り添う指導を継続する。

本年度の重点	3	学校内外の安全の確保を目指し、地域・保護者との連携を図る。
目標（評価規準）		○保護者が安全確保のための連携の充実を実感する。
重点に係る現状 設定理由		○地域の団体等の尽力で、子どもの登下校における安全確保がなされている。 ○安全確保は、子どもの安全・安心を守る必要条件なので、引き続き、諸団体と連携を図りながら取り組んでいく。

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	○教職員向けアンケート項目「学校は、施設・設備の安全への対応ができています」では、肯定的回答が58.3%であった。 ○教職員向けアンケート項目「学校は、家庭・地域との連携がなされている」では、75.0%が肯定的な回答であった。
各アンケート等の結果	○保護者向けアンケート項目「学校は、保護者や地域との連携を大切にしている」において、肯定的回答が88%であった。 ○保護者向けアンケート項目「学校の情報や考え方が、学校だより・学級通信等により伝わってくる」において、肯定的回答が91%であった。 ○保護者向けアンケート項目「学校は、子どもの安全に配慮し、環境整備に努力している」において、肯定的回答が89%であった。
自己評価結果 （見解と改善方策）	○学級通信、学校通信により、学校の考え方や情報を発信し、学校の考え方や情報が家庭や地域に伝わるよう引き続き取り組んでいく。 ○地域担当者との連携を図り、児童の安全確保を継続している。 ○学級指導を中心に「自分の身は自分で守る」という基本方針のもと、防災・防犯教育に引き続き取り組んでいく。 ○施設・設備の安全確保のための点検等に対する全職員の意識は高いが、予算的な課題もあり、環境整備の改善を進めにくい面もある。今後も行政と連携しながら環境改善に取り組んでいく。
学校関係者評価結果	○地域の安心・安全を、学校とともに考えていくことはとても意義のあることである。 ○引き続き地域と連携し、子どもの安全確保に努めてほしい。
最終改善方策	○基本方針「自分の身は自分で守る」のもと、引き続き防犯教育や防災教育の充実に努める。 ○地域と連携して子どもの安全確保に努めるとともに、学校行事・PTA行事の更なる充実に努める。